

科目	心理学 (B)	単位数	2単位
担当教員	多田 美香里		
履修対象	心理科学科1年春学期・健康科学科1年春学期・子ども1年春学期・発達1年春学期		
概要と目的	基本的な知識とされる心理学の過去の研究から様々なトピックスについて紹介する。心理学の基本的な知識や心理学の考え方の特徴をつかむことをめざすことを目的とする。		
達成目標	「知識・技能」 （１）心理学の成り立ちについて概説できる。 （２）人の心の基本的な仕組みや働きについて概説できる。 （３）心理学の学術的専門書を読むことができる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）学術的な心理学と科学的でない心理学の違いを区別できるようになる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）過去の研究について現在の倫理的観点から批評することができる。		
授業計画			
1	心理学とは、心理学の歴史：心理学が扱う対象、細分化された領域、心理思想、心理学の成り立ち、学派		
2	人間の行動特徴：動物と人間、生得性と獲得性、初期経験		
3	発達：発達観、言語発達、自我の形成、発達段階、加齢		
4	学習：古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習		
5	感覚：感覚の種類と範囲、感覚間統合		
6	知覚：注意、体制化、恒常性、空間と運動		
7	認知：記憶の過程、非言語的記憶、学習プログラム		
8	言語：音声、運用と理解、概念獲得		
9	思考：問題解決、推論、創造的思考		
10	動機づけ：内発的動機、社会的動機、動機の階層と獲得、原因帰属		
11	情緒：ノンバーバルコミュニケーション、情動表出、気分と感情		
12	人格：把握と形成、特性と類型、検査、知能		
13	社会：個人と集団、対人認知		
14	臨床：異常心理学、心理アセスメント、心理療法論		
15	再び、心理学とは：これまでのまとめとそれを踏まえた人の心の基本的な仕組みや働き、関連する領域について確認		
授業形態／具体的な内容	講義／講義		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定しない			
参考書			
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：心理学の成り立ちや心の仕組みについて理解し、概要を説明できること。 成績評価の方法：受講態度（積極性・コメントの妥当性）10点、課題（宿題、小テスト、小レポート、コメント）の達成度40点、学期末レポート試験50点とする。		
留意点	毎回宿題がある。加えて、次回の授業で扱う用語等を事前に挙げるので、自主的に調べてくることを推奨する。		
準備学習	各回のテーマについて教科書の該当する部分を読み、わからない用語や項目について各自で調べてノートにまとめておくこと（１時間程度）。 授業終了後マナバに掲載している課題を期限までに行い提出すること（１時間程度）。		
備考	宿題、レポート課題等については締め切り後にマナバ等で解答例を示すので、採点結果とともに参照すること。	No.	GE712004

科目	心理学概論（心）	単位数	2単位
担当教員	山田 富美雄		
履修対象	心理科学科1年春学期		
概要と目的	こころを科学的に理解する基本的な考え方を学ぶことを目的とします。		
達成目標	心理学の学問的性格を知るために、以下の観点から概要を学びます。 「知識・技術」 （１）心理学の歴史、用語や理論、方法論についての知識を得る。 （２）心の仕組み、心理学のいろいろな領域について理解し説明できる。 （３）心理学上の援助技術について理解し説明できる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）科学的心理学の思考過程を身につける。 （２）身の回りのコトについて、心理学の専門用語をつかって考える。 （３）心理学上の理論や法則、数式などを他者に説明できる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）心理学への関心・意欲を高める。 （２）心理学の知識を多方面に活用する力を持つ。 （３）多様な心理的支援を身近な対象者に対して実践できる。		
授業計画			
1	心理学とは何か（オリエンテーション）		
2	心のモデル：メカニクな心、ダイナミックな心、野獣の心、コンピュータの心		
3	心のはたらきの生理学的基礎		
4	心のはたらき１：学習～学ぶ・慣れる・習慣化する		
5	心のはたらき２：記憶～覚える、記憶する、思い出す、忘れる		
6	心のはたらき３：感覚～見る、聞く、感じる、痛む心		
7	心のはたらき４：知覚～分かる、動く、錯覚する、ものまねする		
8	心のはたらき５：感情～ポジティブな感情、笑うとは、怒るとは		
9	心のはたらき６：動機づけ～やる気の原理、インセンティブで動く心		
10	心のはたらき７：ストレス～不安とうつ、怒りと混乱への対処法		
11	心のはたらき８：社会心理～他者と生きる智恵		
12	心の個人差１：パーソナリティ～十人十色の性格・人格・品格		
13	心の個人差２：知性と感性～知能、社会的知能、創造性		
14	心の発達：細胞からヒト、人間、そして老い		
15	心の健康・不適應のアセスメント、インターベンション、プリベンション		
授業形態／具体的な内容	①講義／②講義、グループワーク、実習		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田富美雄（監修・編著）	北大路書房	1900円＋税
参考書	心理学検定のための以下のテキストは用語の整理に役立ちます。 日本心理学会諸学会連合心理学検定局・編「心理学検定基本キーワード」、実務教育出版、2017年版 日本心理学会諸学会連合心理学検定局・編「心理学検定公式問題集」、実務教育出版、2017年版		
成績評価の基準・方法	基準 心理学の学問的特性を理解し、心理学分野全てにわたる知識（理論）と応用への道筋が理解できれば合格 方法 授業中にマナバで実施する小テストや課題の達成度で45点（3点×15回）、最終試験（マークシート形式）で55点の合計点で評価します。		
留意点	心とは何か、心のはたらきにはどのようなものがあり、どのように科学するのかを常に考えておいてください。心理科学部での学びの原点は心理学概論だともって、楽しく授業に参加してください。		
準備学習	シラバスに記載のテーマに従って講義がおこなわれます。テキストの該当ページを熟読し、授業ノートに整理し、重要用語をまとめておくこと。また授業前にマナバから提供される資料は必ずダウンロードし、授業ノートとともに整理しておくこと。（60分程度）		
備考	分からないことがあったら、授業が終わってから、聞きに来てください。 オフィスアワーも利用しましょう。	No.	PY621002・ HS121001

科目	社会心理学概論		単位数	2単位	
担当教員	尾崎 拓				
履修対象	心理科学科2年春学期				
概要と目的	「概要」 社会心理学の基礎知識を学修する。 「目的」 個々の社会心理学の知見について理解するとともに、どのような研究方法を用いてどのように科学的な知識を導き出すかという手続きについても理解できるようになることを目的とする。				
達成目標	「知識・技術」 （１）社会心理学の基礎知識を身につける。 （２）社会心理学の理論や研究方法について説明できる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）社会事象を科学的に分析することができる。 （２）実社会で生じている様々な問題について、科学的根拠にもとづく提言ができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）職場や社会で主体的に他者と関わる方法を身につける。 （２）社会心理学の知識を活かして多様性を尊重できるようになる。				
授業計画					
1	イントロダクション				
2	社会的認知（１）：対人認知（１）				
3	社会的認知（１）：対人認知（２）				
4	社会的認知（３）：態度（１）				
5	社会的認知（４）：態度（２）				
6	社会的認知（５）：社会的推論（１）				
7	社会的認知（６）：社会的推論（２）				
8	他者・世界との関わり（１）：集団と個人（１）				
9	他者・世界との関わり（２）：集団と個人（２）				
10	他者・世界との関わり（３）：規範（１）				
11	他者・世界との関わり（４）：規範（２）				
12	他者・世界との関わり（５）：文化と人間				
13	他者・世界との関わり（６）：進化				
14	社会心理学の研究法				
15	まとめ：社会心理学の知識を活用する				
授業形態／具体的な内容	講義／講義				
教科書					
教科書名		著者名	出版社		金額
『グラフィック 社会心理学 第2版』		池上知子・遠藤由美	サイエンス社		2,860円
参考書	『社会心理学・再入門』 ジョアンヌ・Ｒ・スミス (著), S・アレクサンダー・ハスラム (著), 樋口匡貴 (翻訳), 藤島喜嗣 (翻訳)、新曜社、3,190円 『社会心理学キーワード (有斐閣双書—KEYWORD SERIES)』 山岸俊男、有斐閣、2,090円				
成績評価の基準・方法	基準 社会心理学の基礎的な知識を理解できれば合格とする。 方法 試験（100％）。				
留意点	ノートテイキングを重視する。講義内容や自身の経験に関連する質問・コメントを歓迎する。				
準備学習	各回の授業前にマナバで提示する参考資料を読み、ノートに理解した点と不明な点をまとめる（１時間）。				
備考	質問や課題などに対するフィードバックは講義中およびマナバで行う。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性がある。				No.

科目	心理学統計法Ⅰ（心）		単位数	2単位
担当教員	宇恵 弘			
履修対象	心理科学科1年春学期			
概要と目的	心理学の研究で用いられる統計手法について学ぶ。この講義を通して、統計法の基礎概念の理解を深める。			
達成目標	「知識・技能」 （１）心理学で用いられる統計手法について概説ができる。 （２）データの数量化の意味が説明、統計量の計算、推測統計の説明、統計的仮説検定の説明ができる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）正しい計算ができているか、また、正しい統計知識の利用ができているか考えることができる。 （２）統計に関する基礎的な内容について理解し、データを用いて実証的に考えることができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）こころを数値で表現することに関心をもつ。 （２）マスメディアで目にする（耳にする）統計情報に関心をもつ。			
授業計画				
1	オリエンテーション			
2	心理学研究と統計：リサーチ・クエスチョン、仮説の検証、仮説検証の論理、研究のアプローチとデザイン、対象者の選定、構成概念の選定			
3	分布の記述的指標とその性質（１）：変数とは、記述統計と推測統計			
4	分布の記述的指標とその性質（２）：代表値（平均と中央値）と散布度（偏差）			
5	分布の記述的指標とその性質（３）：散布度（偏差と平均偏差）			
6	分布の記述的指標とその性質（４）：散布度（分散と標準偏差）			
7	分布の記述的指標とその性質（５）：標準化と偏差値			
8	相関関係の把握と回帰分析（１）：散布図と相関係数			
9	相関関係の把握と回帰分析（２）：回帰係数と回帰直線			
10	確率モデルと標本分布（１）：母集団と標本、母数と標本統計量、標本分布、不偏推定量			
11	確率モデルと標本分布（２）：正規分布			
12	確率モデルと標本分布（３）：点推定と区間推定			
13	検定と推定の考え方（１）：仮説検定の手順			
14	検定と推定の考え方（２）：検定の過誤と検定力			
15	講義のまとめ			
授業形態／具体的な内容	講義／反転授業、実習			
教科書				
教科書名		著者名	出版社	金額
心理統計学の基礎－統合的理解のために－		南風原朝和	有斐閣	2,200円+tax
参考書	よくわかる心理統計、山田剛史・村井潤一郎、2004年、ミネルヴァ書房 心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、1990年、北大路書房 初めて学ぶ統計学、菅民郎・桧山みぎわ、2003年、現代数学社			
成績評価の基準・方法	基準 ①心理学で用いられる統計手法と統計に関する基礎的な知識を理解し、②宿題や期末試験による各概念の確認過程で一定の基準をクリアしていれば合格。 方法 事前事後課題、期末試験、学習意欲による総合評価。			
留意点	宿題（事前学習と事後学習）は毎時課すので必ず提出すること。特に、復習を必ず実施すること。			
準備学習	各回、事前事後学習のための宿題を準備しているので、翌週までに解答しておくこと。（1.5時間程度）			
備考	各回の宿題については次週にフィードバックする。 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性があります。			No. PY621003・HS121002

科目	心理学統計法Ⅱ	単位数	2単位	
担当教員	多田 美香里			
履修対象	心理科学科2年春学期			
概要と目的	「概要」心理統計法Ⅰに続いて心理学の研究で実際に用いられる統計手法を紹介し、演習により実際に検定を行う。 「目的」統計手法を学ぶことで科学的見地と思考について理解することが目的である。			
達成目標	「知識・技能」 （１）心理学で用いられる統計手法について概説できるようになる。 （２）論文の統計的記述を抵抗なく読むようになる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）基本的な心理統計の内容を理解し、データを用いて実証的に考えるようになる。 （２）ニュースやインターネット等で得られる情報に対して科学的・客観的判断をもって理解する。 「主体性・多様性・協働性」 （１）心理学的問題に対して適合した統計の手法を自ら選択できる。			
授業計画				
1	心理学で用いられる統計手法について概説するとともに、データを用いた実証的な考えについて議論する。			
2	t検定／独立な２群の平均値差に関するt検定（１）			
3	t検定／独立な２群の平均値差に関するt検定（２）			
4	t検定／対応のあるt検定			
5	復習／t検定を用いた研究事例			
6	カイ２乗検定（１）／適合度の検定			
7	カイ２乗検定（２）／独立性の検定			
8	復習／カイ２乗検定を用いた研究事例			
9	分散分析／１要因分散分析（１）			
10	分散分析／１要因分散分析（２）			
11	復習／１要因分散分析を用いた研究事例			
12	分散分析／２要因分散分析（１）			
13	分散分析／２要因分散分析（２）			
14	分散分析／２要因分散分析（３）			
15	復習／２要因分散分析を用いた研究事例、まとめ／その他の統計の紹介、心理統計の特徴の復習			
授業形態／具体的な内容	講義／講義、実習			
教科書				
教科書名	著者名	出版社	金額	
心理統計学の基礎－統合的理解のために－	南風原朝和	有斐閣	2,420円	
参考書	南風原朝和・平井 洋子・杉澤 武俊（2009）心理統計学ワークブック -- 理解の確認と深化のために 有斐閣 南風原朝和（2014）続・心理統計学の基礎 -- 統合的理解を広げ深める 有斐閣 森敏昭・吉田寿夫（1990）心理学のためのデータ解析テクニカルブック 北大路書房 田中敏・山際勇一郎（1992）ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 教育出版 山内光哉（2009）心理・教育のための統計法 サイエンス社			
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：心理学で用いる基本的な統計手法について理解し、概要を説明できること。 成績評価の方法：受講態度（積極性・コメントの妥当性）10点、課題（宿題、小テスト、小レポート、コメント）の達成度40点、学期末試験50点とする。			
留意点	毎回宿題がある。また、定期的に課題やコメントの提出を求める。授業中に電卓を用いた計算を行うことがある。			
準備学習	各回のテーマについて教科書の該当する部分を読み、わからない用語や項目について各自で調べてノートにまとめてくこと（１時間程度）。 授業終了後マナバに掲載している課題を期限までに行い提出すること（１時間程度）。			
備考	毎回の宿題や課題については締め切り後にマナバ等で解答例や採点結果を示すため、各自の学習の参考にすること。 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法を変更する可能性があります。		No.	PY621011

科目	心理学研究法Ⅰ（心）	単位数	2単位
担当教員	尾崎 拓		
履修対象	心理科学科1年秋学期		
概要と目的	すべての領域の心理学を学ぶ基礎となる知識を学修します。心理科学の研究法を学ぶことによって、これから学ぶ心理学の専門領域の内容を、よりの確に学ぶ準備ができるようになることを目的とします。		
達成目標	「知識・技能」 （１）科学に関する基礎的な知識を理解する。 （２）心理学の研究方法についての知識を理解する。 （３）自分の研究や活動で研究法を応用する技能を修得する。 「思考力・判断力・表現力」 （１）自分の研究を遂行する際に、適切な研究法を判断できる。 （２）自分や他人の研究法に対する批判的思考ができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）自分自身の興味に応じて、研究法を主体的に選択できる。 （２）さまざまな研究法を理解することで、心理学の多様なアプローチ方法を理解する。		
授業計画			
1	心理学研究法の概要と講義方針の説明：心理学と科学		
2	研究とはなにか：科学的な知識はどのように生み出されるか		
3	心理学研究者の日常：研究・倫理・論文		
4	心という見えないもののはたらきをどのように研究するのか：心理学研究法の基礎知識		
5	心のはたらきを調べる方法：実験・調査・観察・面接		
6	心理学で何を調べるのか：質的研究と量的研究		
7	心理学が扱うデータ：データとはなにか、なぜ重要なのか		
8	心を測定すること：「気持ち」をどう測るか		
9	データの中身を把握する：記述統計		
10	どのようにデータを得るか・データから何が言えるか：抽出と母集団		
11	手元のデータからその先を見通す：推測統計		
12	データにもとづいて判断する：検定の考え方		
13	データを扱ううえで注意すること：統計を正しく使う		
14	人間の心を測定するうえで注意すること：研究倫理		
15	よい研究とは：自分が研究をするうえで考えておくべきこと		
授業形態／具体的な内容	講義／講義		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
指定教科書なし			
参考書	『なるほど！心理学研究法』（心理学ベーシック第1巻）、三浦麻子監修・著、北大路書房、2,200円 『心理学研究法入門』（心理学エレメンタルズ）、アン・サール著、宮本聡介訳、渡辺真由美訳、新曜社、2,200円 『心理学をまじめに考える方法：真実を見抜く批判的思考』、キース・E・スタノヴィッチ著、金坂弥起訳、誠信書房、2,700円		
成績評価の基準・方法	基準 ①科学研究の知識と②心理学研究の方法を理解できれば合格とします。 方法 ①と②に関する単元ごとの試験をmanaで実施します（100％）。		
留意点	ノートテイキングを重視します。講義内容に関する質問・コメントを歓迎します。		
準備学習	manaで各回のキーワードを理解するためのウェブページを紹介します。これを読み、理解した点と不明な点をノートにまとめておいてください（1時間）。		
備考	講義内容に関する質問・コメントに講義内で回答します。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性があります。	No.	PY621006・HS122001

科目	心理的アセスメントⅠ（2年生クラス）		単位数	1単位
担当教員	荒木 敏宏、津田 恭充			
履修対象	心理科学科2年春学期			
概要と目的	「概要」質問紙法、作業検査法、神経心理学的検査など、臨床や研究の場面で用いられる技法を体験しながら修得する。 「目的」基礎的な検査技法について体験を通してその実施方法や解釈法について理解する。			
達成目標	「知識・技能」 （１）さまざまなアセスメントの目的、内容、実施法、解釈法を総合的に理解する。 （２）さまざまなアセスメントの具体的な実施手順と解釈法を修得する。 「思考力・判断力・表現力」 （１）さまざまなアセスメントを体験することを通じて、検査者の役割や姿勢について考える。 （２）アセスメントの個別の結果について解釈し、所見を書くことができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）アセスメントに積極的に取り組む姿勢を示す。 （２）アセスメント実施に伴う倫理的責任について注意を払う。			
授業計画				
1	オリエンテーション、臨床場面における心理アセスメントの考え方（津田・荒木）			
2	性格検査：YG性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）の概要（荒木）			
3	性格検査：YG性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）の実施と解釈（荒木）			
4	神経心理学的検査①認知症スクリーニングテストの概要と実施（荒木）			
5	神経心理学的検査②脳損傷・遂行機能障害スクリーニングテストの概要と実施（荒木）			
6	性格検査：P-Fスタディ（絵画欲求不満テスト）の概要（荒木）			
7	描画を用いた性格検査・発達検査の概要（荒木）			
8	児童相談所における心理アセスメントの実際（荒木）			
9	性格検査：ビッグファイブ理論の概要およびNEO-FFIの実施と解釈（津田）			
10	性格検査：エゴグラム（新版TEG3）の実施と解釈（津田）			
11	性格検査：潜在連合テストの実施と解釈（津田）			
12	精神的健康の調査：CMI、STAI、BDI-IIの実施と解釈（津田）			
13	作業検査法：内田・クレベリン検査の実施（津田）			
14	作業検査法：内田・クレベリン検査の解釈（津田）			
15	医療現場における心理アセスメントの実際（津田）			
授業形態／具体的な内容	演習 / 演習、講義			
教科書				
教科書名		著者名	出版社	金額
参考書				
成績評価の基準・方法	基準：授業で扱った心理アセスメントの理論と方法が理解できていれば合格とする。 方法：レポート提出（遠隔課題含む）や授業内での課題の総合点によって評価する。			
留意点				
準備学習	授業で扱う心理アセスメント及びそれに関する他の心理アセスメント等に関する概要を調べてノートにまとめておくこと（1.5時間程度）。			
備考	遠隔課題に対するフィードバックは、次週授業内で行う。 また、授業においては児童相談所や障害者施設での実務経験に基づく事項等を紹介して、実践的な知識・情報の提供も行う。（荒木） 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法を変更する可能性があります。			No. PY622002・HS721014

科目	心理的アセスメントⅡ（心A）(2年生クラス)	単位数	1単位	
担当教員	櫻井 秀雄、栗村 昭子			
履修対象	心理科学科2年秋学期			
概要と目的	「概要」臨床場面でも特に重視される個別式知能検査や投射法について、体験学習と講義の二本立てで学修する。 「目的」代表的な知能・発達検査の実施方法とその解釈法を学ぶと共に、投射法の基礎理論を学び質問紙法との違いを理解することを目的とする。			
達成目標	「知識・技能」 （１）個別式知能検査を部分的に施行することができる。 （２）知能集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。 （３）集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。 （４）ロールシャッハ・テストのサイン化の意味を理解できるようになる。 （５）投射法と質問紙法の違いを正しく理解する。 「思考力・判断力・表現力」 （１）代表的な知能検査の用い方がわかるようになる。 （２）投射法の基礎理論についてわかるようになる。 （３）知能検査、投射法の限界や倫理についてわかるようになる。 「主体性・多様性・協調性」 （１）個別式検査を積極的に体験する。 （２）自分自身で心理検査の解釈を試みる。			
授業計画				
1	投射法の基礎知識（１）／イントロダクション（１～７回 担当：栗村）			
2	投射法の基礎知識（２）／ロールシャッハ・テストの基礎知識の獲得			
3	投射法の基礎知識（３）／ロールシャッハ・テストのサイン化と解釈理論の獲得			
4	投射法の基礎知識（４）／描画テストの体験と基礎理論の獲得			
5	投射法の基礎知識（５）／描画テストの種類と解釈理論の獲得			
6	投射法の基礎知識（６）／SCTの基礎理論の獲得			
7	投射法の基礎知識（７）／SCTの解釈の獲得			
8	知的・発達のアセスメント実習（１）／知能検査の基礎知識の獲得（８～14回 担当：櫻井）			
9	知的・発達のアセスメント実習（２）／知能検査の施行法の獲得（WISC）			
10	知的・発達のアセスメント実習（３）／知能検査の施行法の獲得（WISC）			
11	知的・発達のアセスメント実習（４）／知能検査の施行法の獲得（K-ABC）			
12	知的・発達のアセスメント実習（５）／発達検査の施行法の獲得（新版K式発達検査2001）			
13	知的・発達のアセスメント実習（６）／発達検査の施行法の獲得（新版K式発達検査2001）			
14	知的・発達のアセスメント実習（７）／知能指数の基礎理論と算出方法の獲得・知能検査のまとめ			
15	倫理とまとめ（平常試験）／倫理についての知識の獲得 と平常試験(担当：栗村・櫻井)			
授業形態／具体的な内容	講義／講義、演習、ディスカッション			
教科書				
教科書名	著者名	出版社	金額	
指定教科書なし				
参考書	心理アセスメントハンドブック 上里一郎 西村書店			
成績評価の基準・方法	基準 当該達成目標である「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「主体性・多様性・協調性」が達成できれば合格。 方法 授業態度、試験により、平常試験（80％）、授業での発言および個別式検査実習時の主体性など授業への貢献度（20％）として、それぞれ各担当者の評価を合計して総合評価とします（なお、本年度の平常試験はレポート試験と致します）。			
留意点	臨床心理アセスメントⅠと同様、授業で使用する心理テスト用紙を購入・持参して本講義に臨むこと。私語、大幅な遅刻は認めない。			
準備学習	事前に授業で扱うアセスメントについて参考図書などで準備学習をすること（１時間程度）。また、授業後は授業で取り扱ったアセスメントについてノートなどにまとめて理解しておくこと（１時間程度）。			
備考	担当教員（櫻井）は、大阪府池田保健所箕面支所、大阪府門真市福祉事務所、子供心身医療研究所、奈良県中央・高田児童相談所および奈良県心身障害者リハビリテーションセンターにて、臨床心理士および心理判定員として臨床心理業務の従事した経験があり、その実務経験を活かして、臨床場面でも特に重視される個別式知能検査(WISCⅢ・Ⅳ、K-ABCおよび新版K式発達検査2001)の検査法及び解釈法について学ぶ授業を行う。 担当教員（栗村）は精神科病院、総合病院の神経精神科、福祉施設で臨床心理士として心理判定、個人・集団の心理療法を行ってきた。現在も総合病院で心理臨床業務に携わっている。その臨床経験を授業でも提供している。		No.	PY622004

科目	心理学実験Ⅰ（心A）		単位数	1単位	
担当教員	多田 美香里、林 美恵子、松本 敦				
履修対象	心理科学科2年春学期				
概要と目的	「概要」 心理学の基礎的な実験を実施し、科学における実験の意義と方法の理解を深めていく。 「目的」 実験を通じて科学的見地と思考について理解することが目的である。				
達成目標	「知識・技能」 （１）実験の目的に合わせて実験計画を立てることができる。 （２）実験データの収集および処理を適切に行うことができる。 （３）実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）実験を通して実証的な考え方をできるようになる。 （２）研究報告書の作成を通じて、科学的・客観的な表現ができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）実験結果を様々な視点から考察することができる。				
授業計画					
1	ガイダンス：受講上の注意点、科学論文と研究倫理、文献検索の仕方などの確認をします。				
2	系列位置効果：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
3	系列位置効果：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
4	視覚探索：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
5	視覚探索：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
6	大きさの知覚：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
7	大きさの知覚：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
8	ミュラー・リヤー錯視：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
9	ミュラー・リヤー錯視：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
10	SD法：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
11	SD法：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
12	触2点閾：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
13	触2点閾：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
14	データ解析演習：実習の意義と目的を解説し、SPSSを用いたデータ解析方法を説明します。				
15	データ解析演習：SPSSによるデータ分析結果の出力とその解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
授業形態／具体的な内容	実験／グループワーク、実験、実習				
教科書					
教科書名		著者名	出版社		金額
教科書は指定せず、教員が用意したレジュメに基づいて授業をすすめます。					
参考書	心理学実験指導研究会（１９８５）実験とテスト＝心理学の基礎 培風館 日本心理学会認定心理士資格認定委員会（２０１５）認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房				
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：実験報告書（レポート）が作成でき、心理学の実験について理解すること。 成績評価の方法：各レポートは、別途配布する評価表の基準によって100点満点で評価します。すべてのレポートの平均点を80％、受講態度（実験への貢献度、積極性等）を20％とします。				
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。 オムニバス講義ではありません。3班（3教室）に分かれて2週で1テーマずつ順番に行います。 上記の授業計画の授業回ごとの内容は1班の例です。3教室別テーマで同時進行しますので、テーマの順番は班によって違います。 テーマの担当は次のとおりです（予定）。 系列位置効果、ミュラー・リヤー錯視（松本） 視覚探索、SD法（林） 触2点閾、大きさの知覚（多田） データ解析演習（全員） レポート（実験の報告書）はすべてのテーマで提出し、期限までに提出されない場合は成績評価対象になりません。				
準備学習	この実習で扱うテーマに関する用語を各自調べてノートにまとめてくること（1時間程度）。 実験終了後この実習で扱ったテーマに関する文献を調べてノートにまとめておくこと（1時間程度）。				
備考	レポートは添削し、評価とコメントをマナバ等でフィードバックします。合格点に達していないレポートには再提出を課します。期限までに再提出されない場合、そのテーマのレポートは0点になります。 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法を変更する可能性があります。				No. PY622001・HS722002

科目	心理学実験Ⅱ（心A）	単位数	1単位		
担当教員	多田 美香里、林 美恵子、松本 敦				
履修対象	心理科学科2年秋学期				
概要と目的	「概要」 心理学実験Ⅰで学んだことを活かしながらに進んだ実験を行うことに加えて実験計画を考えたり考察を深めていくことにも取り組む。 「目的」 基礎から一歩踏み込んだ実験を実施することにより科学的見地と思考について理解をさらに深めることが目的である。				
達成目標	「知識・技能」 （１）実験の目的に合わせて実験計画を立てることができる。 （２）実験データの収集および処理を適切に行うことができる。 （３）実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）実験を通して仮説検証について学び、実証的な考え方をできるようになる。 （２）研究報告書の作成を通じて、科学的・客観的な表現ができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）実験結果を様々な視点から考察することができる。 （２）心理学の研究例について改善点やより良い検証方法の提案ができる。				
授業計画					
1	ガイダンスと復習課題：受講の注意点の確認、実験およびレポート作成に関する課題を行います。				
2	ストループ課題：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
3	ストループ課題：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
4	社会的促進：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
5	社会的促進：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
6	重量弁別：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
7	重量弁別：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
8	日常記憶：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
9	日常記憶：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
10	知覚運動学習：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
11	知覚運動学習：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
12	連想ブライミング：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
13	連想ブライミング：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
14	生理データの測定：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。				
15	生理データの測定：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。				
授業形態／具体的な内容	実験／グループワーク、実験、実習				
教科書					
教科書名		著者名	出版社	金額	
教科書は使用せず、教員が用意した教材に基づいて授業をすすめます。					
参考書	心理学実験指導研究会（１９８５）実験とテスト＝心理学の基礎 培風館 日本心理学会認定心理士資格認定委員会（２０１５）認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房				
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：実験報告書（レポート）が作成でき、心理学の実験について理解すること。 成績評価の方法：各レポートは、別途配布する評価表の基準によって100点満点で評価します。すべてのレポートの平均点を80％、受講態度（実験への貢献度、積極性等）を20％とします。				
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。 オムニバス講義ではありません。３班（３教室）に分かれて２週で１テーマずつ順番に行います。 上記の授業計画の授業回ごとの内容は１班の例です。３教室別テーマで同時進行しますので、テーマの順番は班によって違います。 テーマの担当は次のとおりです（予定）。 ストループ課題、生理データの測定（松本） 社会的促進、知覚運動学習（林） 重量弁別、連想ブライミング（多田） 日常記憶（全員） レポート（実験の報告書）はすべてのテーマで提出し、期限までに提出されない場合は成績評価対象になりません。				
準備学習	この実習で扱うテーマに関する用語を各自調べてノートにまとめてくること（１時間程度）。 実験終了後この実習で扱ったテーマに関する文献を調べてノートにまとめておくこと（１時間程度）。				
備考	レポートは添削し、評価とコメントをマナバ等でフィードバックします。合格点に達していないレポートには再提出を課します。期限までに再提出されない場合、そのテーマのレポートは０点になります。 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法を変更する可能性があります。			No.	PY622003

科目	心理学研究法Ⅱ（調査研究法）	単位数	2 単位
担当教員	宇恵 弘		
履修対象	心理科学科 2 年秋学期		
概要と目的	「概要」 心理学の代表的研究法の 1 つである質問紙調査法から特に尺度構成について学修をします。まず、質問項目作成時に留意する点を学び、実際に質問項目を作成します。次に、作成した質問項目を使用して調査を実施し、収集した資料の入力と項目の分析を行います。 「目的」 質問項目の作成方法とその回答方法、ならびに調査の手続きと項目の検討を、実習を通じて理解・体得することが目的です。		
達成目標	「知識・技能」 （１）質問項目の作成方法について理解し、実践で役立てることができる。 （２）調査倫理について理解し、実践で役立てることができる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）人間の行動、態度、思考などを的確にとらえる項目となっているか考えることができる。 （２）コンピュータを利用し、質問紙の作成からデータの入力・分析までをおこなうことができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）人間の行動、態度、思考などを的確にとらえるための項目作成について関心を持つ。 （２）質問紙調査を実施する際の倫理について関心を持つ。 （３）仲間と協力し、情報交換をしながら項目作成に取り組むことができる。		
授業計画			
1	質問紙調査法とは 1 /オリエンテーション、他の研究法との比較から質問紙調査法を理解する、サンプリングと調査の実施		
2	質問紙調査法とは 2 /フェースシートと調査倫理		
3	項目作成の基礎 1 /測定内容の明確化、項目作成の方法、ワーディング（課題：項目の案出）		
4	項目作成の基礎 2 /質問項目を整える（課題：項目案をまとめる）		
5	項目作成の基礎 3 /回答形式について（課題：項目案をまとめる）		
6	項目作成の基礎 4 /調査用紙の作成（課題：調査用紙を完成させる）		
7	調査の実施/調査の実施、データの整理と入力（課題：データ収集と入力）		
8	項目分析 1 /項目困難度 1（課題：データの統合と度数分布表の作成）		
9	項目分析 2 /項目困難度 2（課題：データ分析結果のレポート作成）		
10	項目分析 3 /項目識別力 1（課題：項目尺度間相関を求める）		
11	項目分析 4 /項目識別力 2（課題：データ分析結果のレポート作成）		
12	項目分析 5 /項目識別力 3（課題：GP 分析を行う）		
13	項目分析 6 /項目識別力 4（課題：データ分析結果のレポート作成）		
14	春学期の復習 1 /レポート作成		
15	春学期の復習 2 /レポート作成		
授業形態/具体的な内容	講義/実習もしくは実技 グループワーク/講義/実習もしくは実技/PBL/調査学習		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
指定教科書なし			
参考書	図書館 OPAC で検索 (https://fuksi-kagk-u.opac.jp/opac/Notice/detail/39)		
参考書書名	著者名	出版社	金額
調査法講義	調査法講義	調査法講義	
豊田秀樹	豊田秀樹	豊田秀樹	
朝倉書店	朝倉書店	朝倉書店	
成績評価の基準・方法	「規 準」 ①項目作成の一連の手順が理解でき、②各回の課題や最終課題において一定の基準をクリアできていれば合格。 「方 法」 各回の課題提出状況と学習内容確認課題 60%、学修意欲 40%		

留意点	課題の提出を頻繁に求めます。 グループワークにより講義と課題を進めます。 心理統計学の学習を終えている、あるいは本年度履修していることが望ましい。 コンピュータの操作、特に Excel の操作に熟達していること。		
準備学習	心理統計学の学習を終えている、あるいは本年度履修していることが望ましい。 コンピュータの操作、特に Excel の操作に熟達していること。（事後学習に対して 2 時間程度）		
備考	各回の課題については必要に応じて次週にフィードバックする。 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性があります。	No.	PY322006

科目		心理学特殊講義Ⅰ		単位数	2単位
開講年度学期・曜日 時限		2024年度秋学期		水曜3限	
担当教員		宇恵 弘			
履修対象		心理科学科3・4年秋学期			
概要と目的		「概要」 心理学実験の方法とから、質問紙法とSD法を取り上げ、各方法によるデータ収集とその分析方法を学修する。 「目的」 尺度構成の過程を体得し、更に人格検査やSD法を実施し、データの解析の実習を行う中で調査の実際に触れることを目的とする。			
学位授与方針との関 連		各授業科目は各学部・研究科の定める学位授与方針に基づき、カリキュラム上に配置されています。科目と学位授与方針の関連につ いては以下のURLから確認してください。(https://www.fuksi-kagk-u.ac.jp/utility/curriculummap.html)			
達成目標		「知識・技能」 (1) 得られたデータを集約し分析する方法について理解し、実践できる。 (2) データ分析の方法を理解し、実践できる。 「思考力・判断力・表現力」 (1) 得られたデータを集約することができる。 (2) 統計解析した結果を解釈することができる。 「主体性・多様性・協働性」 (1) 実験と調査から仲間と協力しデータを収集する。 (2) 仲間と相談しデータ分析をする。			
授業計画				単独	担当教員
1	オリエンテーション				宇恵
2	質問紙法の基礎 1 / 尺度作成の概要説明、尺度項目の案出				宇恵
3	質問紙法の基礎 2 / データの収集と入力				宇恵
4	質問紙法の基礎 3 / 項目分析 1 (尺度得点の算出 (記述統計) とGP分析 (t 検定))				宇恵
5	質問紙法の基礎 4 / 項目分析 2 (IT関連 (相関係数))				宇恵
6	質問紙法の基礎 5 / レポート作成				宇恵
7	質問紙法 (人格検査) 1 / 質問紙調査の概要説明、調査用紙の作成				宇恵
8	質問紙法 (人格検査) 2 / データの収集と入力				宇恵
9	質問紙法 (人格検査) 3 / データの集約と解析 (記述統計、相関係数、t 検定)				宇恵
10	質問紙法 (人格検査) 4 / データの解析 (回帰分析、因子分析)				宇恵
11	質問紙法 (人格検査) 5 / レポートの作成				宇恵
12	SD法 1 / SD法の概要説明、調査用紙の作成				宇恵
13	SD法 2 / データの収集と入力				宇恵
14	SD法 3 / データの解析 (記述統計、分散分析)				宇恵
15	SD法 4 / レポート作成				宇恵
実務経験のある教員 による授業科目					
準備学習		各回、事前事後学習のための宿題を準備しているので、翌週までに解答し、授業の最初に提出できる ようにしておくこと。			2 時間程度
フィードバック		課題に対しては各講義時間内にフィードバックする。			
学生が準備すべき機 器等					
ICT・データサイエン ス教育プログラム					
授業形態		講義 / 実習もしくは実技			
具体的な内容		グループワーク / 講義 / 実習もしくは実技 / 調査学習			
教科書					
教科書名		著者名		出版社	金額

指定教科書なし				
参考書	図書館OPACで検索（ https://fuksi-kagk-u.opac.jp/opac/Notice/detail/39 ）			
参考書名		著者名	出版社	金額
オープンリソース				
成績評価の基準・方法		「基準」 調査の方法論とデータの整理・分析を理解し、レポートとしてまとめることができれば合格。 「方法」 授業での学習意欲 40%、課題提出状況とレポート内容 60%		
留意点		課題の提出を頻繁に求めます。		
備考				
非常時の特例措置		新型コロナウイルス感染症や自然災害等の社会的な影響を受けて、やむを得ない理由により当初の授業計画から変更が生じる場合があります。	No.	PY821025